

令和元年度 大田区立東蒲小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

○本校の規模 全9学級 児童数225名(11月1日現在)
 ○教育目標 友達を大切に子ども・運動で体をきたえる子ども・本気で学ぶ子ども・よく聞き話せる子ども
 ○校内研究 研究主題「伝え合い、学び合う子ども～国語科の学習を通して～」

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
生1 未 来 社 会 を 創 造 的 に	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもを身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	教員向けアンケートで「ICT機器を活用して対話的授業を行っている」と回答した教員の割合 4:9 0%以上 3:8 0%以上 2:7 0%以上 1:7 0%未満	3	・外国語活動について [取組]外国語活動研修会の校内報告会を実施し、全教員で共有した。クラスルームイングリッシュの例の掲示やフラッシュカード作成・活用により、指導の充実を図った。 [改善]外国語を通じたコミュニケーションをより充実させることができた。また、デジタルカメラや実物投影機を情報収集や表現の活用として活用する授業ができた。 [改善]児童がタブレットを活用し、収集した情報を取捨選択したりまとめて発表したりできるように指導する。 ・体力向上全体計画について [取組]一校一取組「長縄」は各学級で取り組み、学期1回体育朝会でご全校一斉に実施した。 [改善]体力テストの結果を基に、各学年の授業計画を立案し、実践する。	・授業を拝見してもICTの活用を見ることができました。 ・大変ですが、教える側のスキルアップにご尽力ください。児童のみ込みが早いです。 ・学校公開で電子黒板やタブレットを活用した授業の取組が行われていた。 ・タブレットの活用と扱いは指導を効果的に頂く為に、その台数を増やさなくてはならないと考えます。子供たちにICTに触れる機会を増やすべきと考えます。 ・ICTはどんどん進めてほしい。保護者にもゲームプログラミングの方がおり、土曜授業で協力していただくことを考えてほしい。 ・現代の子供たちにとって身近なタブレットを活用することで授業や調べ活動に興味をもてると思います。また、子供たちの自主的な取り組みの姿が伺えます。 ・色々仕事が多く大変ですが、教員同士の勉強会なども有用だと思います。 ・これからの時代、うまく活用して学習できるといいですね。 ・まずは機器類にふれる事で良かった事無い、知らない子供たちを無くす事で底上げを図れていると思う。その先をどこまで求めるのか、今後期待しております。
生2 学 力 の 向 上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。	校内研究に関する児童向けアンケートで「国語の授業で話し合うことが楽しい」と回答した児童の割合 4:8 0%以上 3:7 0%以上 2:6 0%以上 1:6 0%未満	3	・学習指導及び校内研究について [取組]主体的に学ぶために、特に国語科の授業において、考えや意見を深めるためのグループでの話し合い活動を取り入れた。人数、組分け、場の設定など工夫し、全学級で研究授業を実施した。 [改善策]今後も学習意欲が学力向上へつながるように、学び合う場面の設定や学習方法を工夫する。また、グループ活動を通して思考や知識が深まるように実践していく。 ・補習教室について [取組]放課後補習は3年生以上、毎週曜日ごとに定期的に行っている。補習内容は学習している単元に沿って決め、習熟を図るために役立っている。参加児童は各学年の2割程度で、曜日が決まっているため参加率は高い。 [改善策]土曜補習は年6回3年生以上に実施しているが、土曜日であること、学校公開に重なることなどの理由で、参加人数に偏りがある。より参加を促せるよう、児童及び保護者に対して周知していく。	・授業に集中する児童が多く、学習に興味をもっている様子が伺える。 ・学校の基本「学力を付ける」ことに関して創意工夫が伺えますが変わらずの努力を。 ・放課後補習に補習のため遅く登室してくる児童が多く、一人一人に寄り添った支援がされていると感じる。 ・70%の児童が楽しいと答えた割合については決して多いとは考えません。更に努力していきたい。 ・日本人はディベートが弱いと言われる。感情的にならず論理的かつ建設的な議論ができるようになってほしい。 ・最近ではコミュニケーションが求められるようになってきている中で、グループディスカッションは経験を重ねていくことが大切だと思います。 ・国語の読解力も重要だと思います。 ・とても活発に学んでいる姿が見受けられます。 ・良い意味でしゃべりできる児童が多い様に思いました。活発な会話があふれていて子供たちの意欲的な姿勢が感じられました。
生3 豊 か な 心 の 育 成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への豊かな心をばぐみまします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	子どもの1日振り返り集計で「友だち・先生・近所の人々に元気よくあいさつをします」の項目における児童の達成率の平均値 4:8 5%以上 3:7 5%以上 2:6 5%以上 1:6 5%未満	3	[取組] ○小中一貫教育の日を中心に社会性や規範意識の育成という視点からの相互意見交換を行ってきた。また、中学校の授業や部活動を参照し、細かい情報の交換を行ってきた。 ○「特別の教科 道徳」についての更に深い理解とそれを授業でどう生かすかという点について、伝達講習を行うとともに資料を配布し、周知徹底を図った。道徳授業地区公開講座では、東京都教育委員会から指導主事をお招きし、授業観察、意見交換、そして指導をいただいた。 ○学校生活調査前に、調査の目的や心構えを確認し、適正な調査を行った。調査結果を基に速やかに面談を行い、対応した。児童の様子、指導の経過について情報交換を行った。 ○ふれあい月間中だけでなく、毎週の生活指導朝会で職域を越えて情報を全教職員で共有した。少しでも気になる点がある場合は管理職に報告し、校内委員会でも話し合う機会を設けた。また、生活指導主任会等で得た情報や方策は各教職員に「生活指導便り」として周知した。 [改善策] ○更に学習面も含めた生活指導全般からの意見交換を学期に1～2回実施し、教育活動に生かしていく。 ○「特別の教科 道徳」の深い理解と指導の充実のために、資料による研修とともに道徳教育推進教師を中心に授業研究を実施する。 ○ストレス症状についての理解を深め、予防的指導としての日常生活の見直しを学期に1回以上行う。そのために「生活のきまり」をもとに児童の実態を正確に把握する。 ○今まで以上に教育センターや病院、SC、SSW等、関係機関とのつながりを持ち、より組織的に対応することで迅速に対応する。	・他者に対する思いやりが見取れる。明るい表情の児童を多く見る。 ・期待します。明るく元気な児童たちを見ていくと嬉しくなります。不登校、いじめや家庭貧困等の情報があるならば職員が情報共有してオール東蒲で対応してください。 ・面識がない児童でも廊下ですれ違うと挨拶ができる子が多い。 ・学校全体、教職員で児童に対応している様子が伺えます。今日迄、のびのびと明るく育てられている子供たちの事が実感できています。 ・東蒲はよく挨拶ができると思います。自己肯定感は大変なもので小さな成功を積み重ねられるようにPTAとしても企画していきたい。 ・子供たちの様々な部分を認め、自己肯定感を育てていくことは大切だと思います。また、職員間で情報を共有することも、子供たちの心の動き、葛藤への気づきに繋がります。とても良い取組だと思います。 ・図書館を利用している子供が生き生きしています。 ・気持ちの良い挨拶ができる児童が多いと思います。この雰囲気は東蒲小ならではのであり、今後も継続して校風として残していって欲しい。
生4 体 力 の 向 上 と 健 康 の 増 進	スポーツに親しむ心や運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	学校生活アンケートで「運動することが楽しい」と回答した児童の割合 4:9 0%以上 3:8 0%以上 2:7 0%以上 1:7 0%未満	4	[取組] フィッシュカードを用いて実施した。児童や家庭に呼び掛け、ホームページ等でも呼び掛けた。 [改善] 保護者会等でも話題にしてもらい、家庭と連携を図り、数値の改善に取り組み。 [取組] 栄養士によるバクバクだよりや、お昼の献立放送による指導を行った。 [改善] 家庭科でも、内容によっては栄養士が入るなど指導の充実を図る。 [取組] 休み時間には、自由な外遊びのみではなく代表委員が計画した遊びを実施し、外遊びを促していた。 [改善] 体育委員会による外遊びの推奨を計画する。	・寒空の中、半ズボンで飛び回る児童が多く見られた。 ・安定している時こそ危機管理の備えが必要と考えます。 ・外遊びが好きな児童が多く、季節を問わず活発に遊んでいる。 ・全学年に於いて活気が見られる。子供たちの頑張りや褒めてあげたいと思います。 ・とにかく元気。校庭で鬼ごっこをしても全く追いつけない。バスケ、バレー、野球などもみんな頑張っていると思います。 ・子供たちの体力向上、栄養面で意識付けは大切なことだと思います。遊び方、運動への取組は体力向上に繋がる良い活動だと思います。 ・よく校庭を駆け回っている姿が外からでも分かります。 ・活発に体を動かす子供が多く、放課後も体育館との間にある公園でかけっこをしたり、体育館に来て鬼ごっこをしたりと、元気に動き回る姿がよく見られます。
生5 魅 力 あ る 教 育 環 境 づ く り	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	学校公開時の保護者アンケートによる授業評価の肯定評価の割合 4:9 5%以上 3:8 5%以上 2:7 5%以上 1:7 5%未満	4	[取組] ○授業公開のアンケートは、担任、全教員で回覧して共有した。 ○研修会を設け、教科指導の重点について確認し合った。また、全クラスの研究授業を実施することにより、OJTを踏まえた校内研修が実施された。 ○研究発表参加後の伝達講習の場を設け、教員全体への周知徹底を図った。 ○校内委員会は各学年1回以上、月1回程度実施し、児童理解や支援体制の強化に努めた。 ○学校公開時には、「分かりやすい授業」「活動の充実」を目指して授業公開を行った。5月と11月の肯定的アンケート結果の平均は「分かりやすい」が99.4%、「充実」が95%であった。 [改善策] ○令和2年度新学習指導要領の全面実施に伴い、より充実した教育活動を目指していく。特にプログラミング教育と外国語科・外国語活動の指導をより一層充実させるために、校内での研修やOJT、伝達講習等に取り組んでいく。 ○保護者、地域と連携を図り、児童一人一人が抱える生活面、学習面の困難さを解決できる環境を構築する。	・教師、保護者が熱心な教育、学校生活に取り組む姿勢がある。 ・学校の宿題でローマ字や英単語を練習している学年を見ることが外国人講師の方の授業等充実している。 ・東蒲小に於ける先生方の指導が良い影響となり、児童達に与えていると考えています。その結果として東蒲中が落ち着いていて周囲から高評価を得ています。今後共東蒲の校風として頑張り下さい。 ・学校の空気の良さは最高です。細かい点はあつたかと存じますが、PTAもできる限り協力いたします。 ・職員間で情報を共有されている様々な取組は子供たちの成長に繋がっていると思います。 ・ぜひもっと図書館を利用してください。 ・保護者の方々への教育方針について理解して頂く努力を行っており、年間を通し、行事への保護者の取組が非常に熱心であると感じます。
生6 学 校 と も に 家 庭 め 地 域 が 一 体 と	学校・家庭・地域が担う役割を明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	保護者アンケートによる13項目の肯定評価の割合の平均値 4:9 5%以上 3:8 5%以上 2:7 5%以上 1:7 5%未満	4	・ホームページについて [取組] 広報担当が教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報を公開し、定期的に学校だよりや、公開授業の予定等定期的に発信し、また、子どもの様子も随時更新し、情報発信に努めた。 [改善] 今後も、開かれた学校を目指し、情報発信していく。 ・地域力を生かした教育活動について [取組] 開校60周年の本年度は、出前授業、地域講話やふれあい給食等、地域との交流が充実したものととなった。 [改善] 本年度同様、昔体験や読み聞かせ等、地域のお力を借り、学校支援地域本部と連携を取り、教育活動の充実を図る。 ○保護者アンケートの肯定的アンケート結果の平均は95.9%であった。回収率70%だったので、来年度は90%以上を目指したい。	・地域と連携活動(大田区総合体育館も含む)が活発に行われている。 ・地域の連携が整っていると伺われます。なお一層の関係構築をお願いします。 ・地域教育連絡協議会で地域の方との交流を多く聞き、地域と共に子供を見ていくと感じる。 ・学校と家庭の協力体制作りを継続的に取り組んで頂きたい。家庭教育学級の取組もあってはどうかと思います。 ・ぜひとも続けていってほしいです。地域を好きな子供は自己肯定感が高くなります。 ・学校が地域との連携を深め、積極的に関わる活動内容は工夫されていてとても良いと思います。 ・地域の町会もうまく協力してもらおうようにしていきたいです。 ・地域の一人ひとりにお話を聞いていただき、よく聞いてくれていました。 ・地域のみなさんとの交流を深める講義等、子供たちを取り巻く環境について知識を深める事ができ、今後も継続して行ってほしい。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。